

氏 名：坂本 真理子

学位の種類：博士（看護学）

学位記番号：甲第9号

学位授与年月日：平成23年3月24日

学位授与の要件：学位規則第4条第1項該当

論文題目：フィリピン農村僻地で地域看護職者がCommunity Health Workersを育成し協働するためのアプローチについての研究
Approach taken by frontline community nurses to support and cooperate with community health workers in rural and remote areas of the Philippines

論文審査委員：主査 森口 育子（兵庫県立大学）

副査 坂下 玲子（兵庫県立大学）

副査 高木 廣文（東邦大学）

副査 斉藤 尚文（中京大学）

論文内容の要旨

【キーワード】

農村僻地、フィリピン共和国、フロント・ラインの地域看護職者、Community Health Workers、育成・協働

【研究の背景】

医療施設や保健医療職者が極端に少ない発展途上国の農村僻地では、Community Health Workers（以下CHW）が地域住民の健康を守るために主要な役割を果たさざるを得ない現実がある。フィリピン共和国もそうした課題を抱える国の1つである。公的な保健医療専門職者としてフロント・ラインに配置され、包括的なプライマリ・ヘルス・ケア活動を担う地域看護職者（以下地域看護職者）は、CHWを日常的かつ継続的に支援するには絶好の位置にいる。しかし、地域看護職者がCHWを育成し協働するための有効なモデルや具体的な方策はいまだに示されておらず、個々の地域看護職者が試行錯誤を重ねている段階にある。

【研究の目的】

東南アジアの中でも特に深刻な地域看護職者の不足を抱えるフィリピン共和国の農村僻地において、フロント・ラインの地域看護職者がCHWを育成し協働するための具体的な方策明らかにすることを研究目的とした。

【研究方法】

研究デザインは、エスノグラフィーの手法を応用した帰納的研究を用いた。

調査地域はフィリピン共和国南ダバオ州ニューコレリア町（以下NC町）で、2008年8月及び2009年1月に調査地域で事前準備を行ったうえで、2009年6月15日から9月10日までの期間、ダバオ市及びNC町に滞在し、調査を行った。主要な研究協力者は、フィリピン共和国における地域看護職者—Rural Health Midwife（以下RHM）7名、フィリピン共和国におけるCommunity Health Workers—Barangay Health Worker（以下BHW）代表者20名、最小行政単位のコミュニティーBarangay Captain 20名である。調査は2段階に分けて行い、NC町全体での保健活動の参与観察を行った後、2箇所の地域を選択して、2週間ずつ滞在し、RHMとBHWとの相互作用の参与観察、インフォーマル・インタビューを行った後、フォーマル・インタビューを行った。NC町の概況について系統的な情報収集も併せて行った。

【倫理的配慮】

兵庫県立大学看護学部研究倫理委員会において承認を得た上で、複数のダバオ医科大学倫理担当者から文化的側面での助言を受け、研究協力者に十分な倫理的な配慮を行い、研究を実施した。

【研究結果】

NC町は人口49,916人を抱える農村へき地であり、保健医療施設は保健所1箇所のみの医療過疎地域である。地域によって衛生設備設置の低さ、保健医療専門職者による出産介助の割合の低さ、栄養失調児の割合の高さなどの課題を抱えていた。NC町のコミュニティ・レベルでの主な保健医療の担い手はRHMとBHWとなっており、両者の協力による活発な保健活動が行われていた。RHMは、コミュニティに駐在し、唯一の保健医療専門職者として24時間体制で住民の相談に応じていた。NC町のRHMはBHW育成・協働のアプローチとして、【違いを受けとめ両者で歩み寄ることで合わせていく】【お互いがオープンにつき合う】【BHWの知識・情報の習得を支援する】【BHWの技術習得を支援する】【BHWの強みと責務を自覚する教育を行う】【BHWの主体性を育む】【BHWのリーダーを育成する】【主張と譲歩のバランスをとる】【毅然とした姿勢と親しみやすさを併せ持つ態度で臨む】【住民にとって身近で役に立つ保健活動を運営する】【キーパーソンにBHWが活動しやすい地域の協力体制を求める】働きかけを行っていた。

[考察]

NC町では、RHMとBHWが日常的な接点を持ち、密接な相互作用が生じていた。地域看護職者とCHWの両者が、違いを受けとめ両者で歩み寄ることで合わせていく過程の展開から、NC町におけるRHMとBHWたちの関わりは「育成協働型」の事例として結論づけることができると考えられた。

地域看護職者は保健医療専門職者としての知識、情報、技術の伝達という、「地域看護職者からのインプット」を行うと同時に、「CHWがもっている力、強みの引き出し」を行う、二方向からの働きかけを行っていく。この二方向のアプローチのバランスがCHWを単に補助的なマンパワーとしてだけではなく、CHWの強みを活かした活動を促進することになる。また、農村僻地という地域で住民と密着して活動を行う地域看護職者には、常に「専門性」と「密着性」のバランスをとっていく熟練した対応技術が必要となる。日頃、地域看護職者たちが経験的に行っていることを意識化し、そのアプローチ内容の焦点を抽出したことは、看護実践力を高めるために強化すべき側面を明らかにしたと考えられ地域看護職者が持つ専門性を示すことになる。地域看護職者のCHWの育成・協働の働きかけにより、CHW活動の更に可能性を拡げ、限られた保健医療資源の中でも、より高い質の保健医療活動を導いていくことができる。同時に、地域看護職者とCHWの二者の協働が安定して育まれることは、それを支える支援体制が必要である。地域看護職者は、地域住民の健康に貢献できるコミュニティの協働体制を整えていくことが必要である。発展途上国における地域看護職者とCHWの育成協働型の実践が成熟していない中、NC町の実践で得られた知見は、今後、農村僻地における、地域看護職者のCHW育成・協働モデルを構築する上で、基本となるものだと考える。

論文審査の結果の要旨

坂本真理子氏は、医療施設や保健医療関係者が少ない発展途上国の農村僻地では、Community Health Workers (CHW) が保健活動の主要な役割を果たさざる得ない現実の中で、フロントラインの地域看護職者がCHWを育成し協働するための有効なモデルや具体的な方策が示されていないことに対する問題意識から本研究に取り組んだ。深刻な地域看護職者の不足を抱えるフィリピン共和国の農村僻地をフィールドとして、地域看護職者がCHWを育成し協働するための具体的な方策を明らかにすることを目的とした。

本研究は、エスノグラフィーの手法を応用した帰納的研究で、調査は町に3ヶ月滞在して、町全体の保健活動の参与観察を行った後、2ヶ所の地域に2週間ずつ滞在し、地域看護職者に密着して、

地域看護職者とCHWの相互作用に焦点化して参与観察、インフォーマル・インタビュー、フォーマル・インタビューによりデータ収集を行っている。

3カ月間の参与観察、フォーマル・インタビューなどから得られたデータを分析した結果、地域看護職者がCHWを育成し協働するためのアプローチとして【違いを受けとめ両者で歩み寄ることで合わせていく】【お互いがオープンにつき合う】【CHWの強みと責務を自覚する教育を行う】

【BHWのリーダーを育成する】など11項目のカテゴリーが抽出された。考察としては、地域看護職者が、CHWを育成し協働していくためのアプローチとして、保健活動に必要な知識・情報・技術のインプットを行うと同時にCHWの強みを引き出していく二方向からのアプローチが活動を促進していること、農村僻地で住民と密着して活動を行う地域看護職者には、常に「専門性」と「密着性」のバランスをとっていき熟練した対応技術が必要なことなど、発展途上国の農村僻地でフロントラインの地域看護職者がCHWを育成し協働していくために必要なアプローチ内容を明らかにして、育成・協働モデルを構築していく上での基本を示すことができた。

審査会では、フィリピンの地域看護職者の地域保健助産師（Rural Health Midwife）と保健所のPublic Health Nurseとの関係、保健所と地域保健助産師が活動する保健所支所（Barangay Health Station）との関係、参与観察、インフォーマル・インタビュー、フォーマル・インタビューのデータ分析方法、研究方法として用いた焦点を絞ったエスノグラフィーについてとエスノグラフィーを用いて良かったエピソード、考察で用いられている文献の活用、看護の示唆についての新たな知見などについて質疑応答があり、坂本氏は適切な説明と意見を述べることができた。

先行研究が少ない分野で、フィリピンの農村僻地で深いフィールド・ワークを行い膨大なデータを収集し分析して、フロントラインの地域看護職者の育成・協働型のアプローチの内容を明らかにできたことは、今後発展途上国の農村僻地でフロントラインの地域看護職者の育成・協働型のアプローチに貢献できると考えられ、博士論文にふさわしい研究であると判定された。